

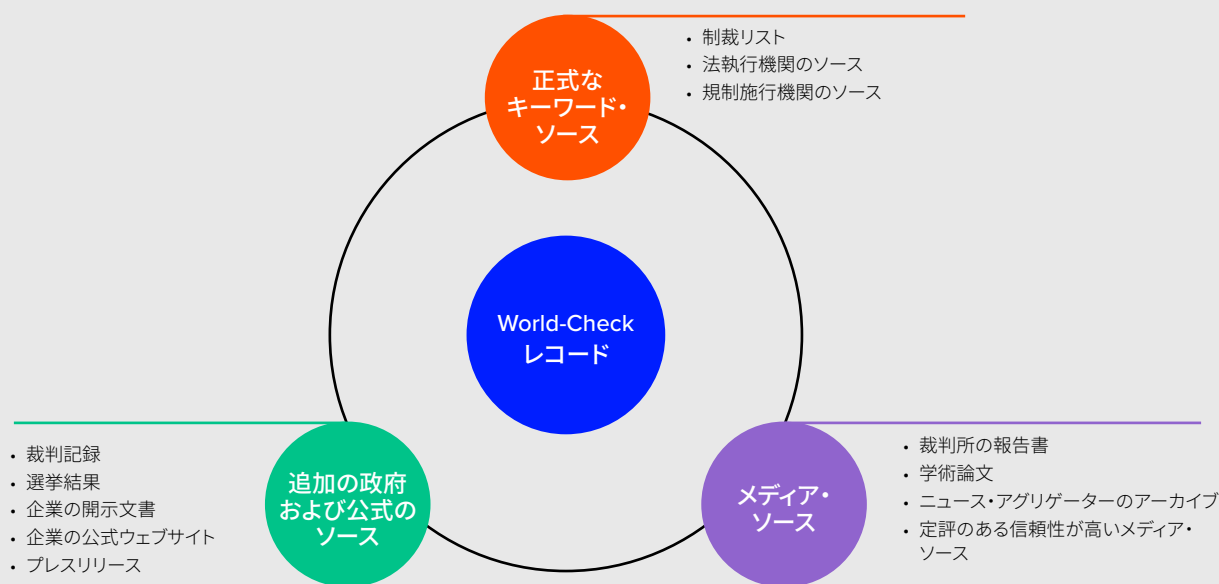
# REFINITIV™ WORLD-CHECK® RISK INTELLIGENCE

## 情報ソースの収録基準概要

Refinitiv™ World-Check® では、レコードの裏付けをとるために、情報ソースの特定を継続的に実施しています。本ファクトシートでは、これらのソースの概要を説明します。

### プライマリー・ソース

World-Check Primary Source List には、リフィニティブが最も定期的に使用するメディア、制裁機関、法執行機関、規制当局、政府のウェブサイトが収録されています。プライマリー・ソースは約 14,000 にのぼり、その半分はメディア・ソースになります。Primary Source List の構成は以下のとおりです。



### セカンダリー・ソース

さらに、別の 30,000 を超えるセカンダリー・ソース (Secondary Source List) を利用して、Primary Source List の裏付けをとっています。リスク・レコードに対して 2 つのソースを使用するという当社のルールに沿って、その情報が 2 つの独立したメディア・ソースにより裏付けられていない限り、新しいレコードを作成することはありません。こうした情報は、Primary Source List で 2 つのメディア・ソースがあること、あるいは Primary Source List から 1 つ、Secondary Source List から 1 つソースがあることが条件となります。

ただし、使用するメディア・ソースは頻繁に変更されるため (新設、廃止、変更を反映するため)、それらすべてをリストすることはできません。そのため、Primary Source List も Secondary Source List も現時点でのリストをを提示しています。また、使用を禁止している情報ソースの包括的なリストも作成しています。



リフィニティブのセカンダリー・ソースは、以下の5つのカテゴリに区分されます。

1. **評判が悪い信頼性に欠けるソース:** これらはリスク情報の裏付けには決して使用しません。フォーラム、メディア以外のブログ、タブロイド、雑誌サイト、社説、オピニオンのページが該当します。また、このカテゴリには、フェイク・ニュース、風刺ニュース、過激派ソースや信頼性に欠ける/誇張されたニュースソース、非常に偏ったソースも含まれます。
2. **経歴情報専用のソース:** 出生地、生年月日、所在地などの裏付け情報についてのみは、これらのソースを使用します。リフィニティブでは、これらを単一の裏付け情報のソースとして使用することはありません。
3. **リスクに関する複数のソース:** 情報に関して裏付けとなる別の信頼性が高いソースがある場合のみ、これらのソースを使用します。
4. **許可されていないソース:** 社内およびポリシー上の理由から、リフィニティブでは、これらのソースの利用を許可していません。
5. **リスクに関するソーシャルメディアの単一ソース:** これは、法執行機関、規制当局の公式サイトがソーシャルメディアのサイトで主催され、リスク情報の裏付けとなる信頼性の高いソースが他に見つからなかった場合に使用します。

## 情報ソースの管理プロセス

制裁機関、法執行機関、規制当局、政府の公式情報に加え、入念に審査した信頼性の高いメディア・ソースの情報をデータベースに収録しています。専門のソース・チームが、ヘイト・スピーチや非常に誇張されたニュースを取り上げているソースなど、評判が悪いソースを利用している可能性のあるメディアを絶えずモニタリングしています。World-Check に採用されたソースが信頼性に欠けると判断された場合、それに応じて信頼性に欠けるソースのリストを更新します。また、ある言語/国で評判の悪いソースが追加で特定された際には、それらのソースはすべて専門チームに通知されます。

## 信頼性に欠けるソースの管理プロセス

レコード・ソースのデータ管理ツールを使用して情報ソースを分類しています。信頼性に欠けると判断された場合、そのソースはブロックされます。

データベース全体に対して定期的なチェックを実施し、信頼性の高いソースから信頼性に欠けるソースに変更される可能性のあるソースを特定します。トレーニングを受けた品質保証チームは、リフィニティブの品質保証プロセスに沿って、送信されたあらゆるレコードに対して毎日チェックを行っています。リサーチャーは全員、常にトレーニング資料やガイドラインを参照し、ソースの評価に関する詳細なトレーニングを受けています。

## 特定メディアの収録ガイドライン

- ネガティブな訴訟関連リスク・データは、2つ以上のメディア・ソース<sup>1</sup>または1つの公式ソースで裏付けをとる**必要があります**。
- これらのメディア・ソースは、定評があり信頼できるものでなければならず、さらに同時配信されるもので**あってはなりません**。
- 例外的に、ネガティブな訴訟関連リスク・データで利用するメディア・ソースが1つとなる場合があります。特定の国家では他のメディア・ソースを利用できない場合があるため、自社で使用できる信頼性の高いメディア・ソースのリストを保有しています。

- レコード作成にあたって使用するメディア・ソースは、7年未満のものでなければならず、報道されている訴追中の事件発生からの経過期間が7年以内である必要があります。<sup>2</sup>
- ネガティブな訴訟関連リスク・データを含まない政治家や個人のサブカテゴリの PEP レコードを作成するための要件は、信頼性の高いメディア・ソース1つのみです。
- メディア・ソースで検知されたネガティブな訴訟関連リスク・データをレコードの根拠とする場合、ソースとして以下を参照する必要があります。
  - 特定の法執行機関、司法機関、規制機関または政府機関が関与し、嫌疑対象となっている個人や企業に対して以下のいずれかの措置が取られている場合:
    - 捜査
    - (目撃者ではなく) 容疑者としての尋問
    - 資産の差し押さえ
    - 逮捕
    - 犯罪に関与したという嫌疑
  - 以下の組織の主要メンバーとしての告発:
    - 組織犯罪集団
    - テロリスト集団
  - 前提犯罪となる特定の事件への関与についてメディアで詳細な報道がされているが、特定の法執行機関、司法機関、規制機関または政府機関の関与が報道されていない場合。
  - メディアによる**告発**に関して、不確かで具体性や詳細を欠く告発を掲載したメディアの記事に基づく情報は**収録しません**。
  - その性質上、メディアによる告発は、法執行プロセスの初期に起こる可能性があるため不正確性のリスクがより大きくなります。したがって、**メディアによる告発**を収録するのは、その背後に実体があると示唆される記事において**十分に具体的な詳細情報**が存在する場合に限定されます。World-Check に不確かな告発を収録することはありません。
- 個人の生年月日、出生地、所在地は、重要な識別要素です。したがって、それらを最大限に活用する必要があり、それによって誤識別のリスクが減り、結果としてデータベースでの誤検出も少なくなります。対象の経歴情報を識別する場合、個人ブログ、Wiki、家系図のサイトなどのソースを使用する場合があります。しかし、これらのソースのいずれかのみに基づいてレコードを**作成することはありませ**ん。
- ポジティブな訴訟関連のリスク・データをレコードに追加する場合に必要なメディアの報道は**1つ**のみです。たとえば、容疑者がすでに勾留されていないことを示すソースが1つのみの場合でも、このデータはレコードに追加されます。

<sup>1</sup> 2つ以上のメディア・ソースで記事を確認した場合、訴追中の事件が発生し、誤報ではない可能性はより高くなります。

<sup>2</sup> 詐欺、贈収賄、汚職、マネーロンダリングなどの複雑な事件が完結し、裁判の判決が出るまでにかかる時間を考慮すると、これは妥当な期間になります。

ウェブサイト: [refinitiv.com/ja/wc](https://refinitiv.com/ja/wc)

